

～古賀院長エッセイ～

次代への風



使命感

医療関係者のコロナワクチン接種が行われていますが、森の木スタッフも1回目の接種を終えています。私達が先がけて接種を受ける意義は、高齢者への接種と少し違います。それは、今も変わらず続いている様々な病気との戦いに積極的に関与するためです。したがって、そこに使命感がないと、ワクチンを受ける資格はありません。

ミッションという英語がありますが、訳しますと使命、任務、特命などとなります。外科医は合併症を起こさないという条件の元に、悪い部分を取り除け、というミッションを与えられます。様々な危険を回避して、目的を果たす必要があります。プレッシャーも大きいですが、使命感を強く持つことで、実行力も高まり、良い結果に繋がります。

この使命感は、社会、学校、家庭などのあらゆる場面で必要とされます。責任感と重なるところもありますが、もっと積極的な意思が働かないといけません。物事を遂行するための原動力でもあり、エネルギーと言ってもよいかと思います。使命や任務は命令調で与えられるので、最初でめげてはいけません。大学受験の数学はすべて命令調です。この条件の元で、値を求めよ、答えよ、証明せよ、といった具合ですので、外科医と同じです。私は、ミッションと言った方が、007やトムクルーズのような気分になり奮い立ちます。

小さな事でも、義務感を使命感に変えて、積極的に取り組めば、心の健康にも大いにプラスになります。



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

- 問題を解くとは、ひとかたまりになっていて
解りづらい内容を紐解くように分けていく作業
難問にぶつかっても目をそらさず、積極果敢に取り組もう!